

～明治・大正ロマンから next 100年へ～
2011年12月1日・大阪で唯一の路面電車・
阪堺電気軌道・開通100年を迎えます！

祝 阪堺電気軌道開通 100 年 “ビリケンさん”と出会う チンチン電車deクリスマス！

2011年12月24日(土) 午後6時～9時

運行ルート：天王寺駅前→ 浜寺公園前→ 我孫子車庫→ 恵比須町→ 通天閣(幸福の神・ビリケンさん参拝と、大阪のクリスマスイブの夜景展望) 解散

16年ぶりに熟塾我孫子車庫に舞い戻る

新世界(通天閣)やルナパークの開業に先駆けて明治36年に開催された第5回内国勧業博覧会の第2会場・堺市を結ぶ路線として開通した**阪堺電気軌道は、2011年12月1日に開通100年を迎えた。**

今も大阪で唯一の路面電車として、市民の足として大活躍している阪堺電気軌道(愛称・チンチン電車)の1両を貸し切って、「その日、サンタさんは来ません。だって、あなたがサンタだもの!」。「実は、私がサンタだった?! 誰かに小さな幸せをわけることができるサンタさんに変身しよう!」が今回のテーマ。

熟塾では、**1995年12月1日金曜日に「チンチン電車で忘年会!」**を開催した。16年前貸し切った車両は、2000年に廃車となった**121形**で、**大阪の市電**として大阪市内の路面を走っていた車両だった。

当時熟塾の心強いサポーター塾生だった大阪ガスの星見享さんが、「大阪の市電かぁ。小さい時、親父と市電に乗るのが楽しみで」と傍らに若き日の亡き父親の存在を感じるかのよう童心に戻ったような表情で窓べりに頬杖をついて車窓を眺める姿が印象的だった。それから2年後の1997年6月8日、57歳で星見さんは彼岸に旅立った。16年ぶりに我孫子車庫に戻ってきた。星見さんやあの日貸し切った大阪市電の車両の姿はないけれど、心の中にあの日の光景がより鮮明に甦った。

開通して100年、多くの人々の思い出も乗せて明治・大正・昭和の大阪の街の移り変わりを眺めながら走り続けたちんちん電車。より早くを求め続けた新幹線にはない、人の暮らしが見えるスピードや価値観が今見直されている。ましてや、**沿線には熊野街道やお能の舞台の松虫に、陰陽師・安部清明の生誕地と伝えられる安部清明神社や、海の守り神・住吉大社に千利休や商人が活躍した堺へ続くまさに歴史ロマンのただなか**を走っている。

猫のたま駅長を看板に奮闘する貴志川線ばかりが話題になるが、沿線の大阪に居ながらちょっとした旅気分を味わえる街並みや史跡めぐりができるのだから大阪の観光資源としての魅力はたっぷりある。更に階段の上がり降りがないプラットホームは老人やお年寄りに優しく、チンチン電車はエコで地球環境にも負荷が少ない。

開通100年を祝う昭和40年当時に復元されたモ161形

午後4時、我孫子車庫で予約していた真新しいカラオケ付きの車両に乗り込むと、隣のレーンに肩を並べているレトロな車両が目に見え込んできた。**阪堺電気軌道モ161形、日本**

最古の現役電車で、928年(昭和3年)製造(当時南海電鉄)の82歳。開通100年を記念して、ニス塗りのドアや鉛丹色の



屋根など、昭和40年当時の状態に復元された車両だった。「カラオケは搭載していませんが」ということだったが、100年地道に走り続けた阪堺電車の歴史をお祝いするのに相応しい車両だと

心が奪われた。「あちらの車両をお借りできますか」とたずねると運よく「今日は予約が入っていないので、利用いただけますよ」という返事。まるで161型車両に引き寄せられるように乗り込むと、「ああ、素敵!」。外はクリスマス寒波厳しい中、トルコブルーのシートは真新しく、床も木製のニス塗で、なんだか暖かで、どこか懐かしい空間が広がっていた。この車両は、チンチン電車と呼称されるきつかった警笛も当時のまま再現。運転席の紐を引っ張ると「すんまへんなあ。どいとなはれ」的な意外に優しい「チンチン」という音色を発する。貸切電車だったので駅に停車中、参加者は何度もその音色を楽しむために紐をひっぱった。

午後5時過ぎ、みぞれ模様の中、宮本夫妻がビールを抱えて我孫子車庫に到着。車内にクリスマスのモールなどを飾りつけしているうちに陽は傾き夕闇が迫る。**5時20分**、参加者が集合している天王寺駅前に向けて貸切車両はガタンコトンと動き出す。**午後5時45分**、狭いプラットホームには一般客と混ざって参加者の顔が並んでいた、「貸切のお客さん、とりあえず乗ってください!」と声をかける。朝日新聞の吉浜記者も乗り込んだ。

サンタもにっこりビリケン弁当に沿線グルメ

午後6時 天王寺駅発車! 参加者が乗ってからの点呼となったが、無事全員乗り込んだようで、会費と引き換えに小袋を渡す。袋の中には、ハート形の何度でも使用できるエコカイロに辰年の絵が入ったおみくじ付の小倉迎春金粉入り昆布茶に、サンタの帽子と髭セットが入っている。サンタに変身すべく、各自が帽子と髭をつける。

まずは、集合写真をとということで、車両の後方に全員集合して記念写真撮影。

席に戻ってまずはビールで乾杯、髭を外して、新大阪駅や、通天閣の2階の売店で土日限定販売の一富士のビリケン弁当の蓋をあける。

ビリケンさんは、1908年、アメリカの女性芸術家、フローレンス・ブリッツの発案した夢の中で見た神様がモデルになった幸福の神様。その後、シカゴにあるビリケンカンパニーという会社がビリケンの貯金箱、ビリケン像を発売し、「幸福の神様」として世界中に流行。翌年の1909年頃、ビリケン日本に上陸大きな話題を集め1911年、大阪の繊維会社「神田屋田村商店」(現在の田村駒)が商標登録を行い販売促進用品や商品キャラクターとして使用。1912年(明治45年)、大阪の新世界の遊園地「ルナパーク」(現在の新世界・通天閣一帯にあったテーマパーク)にビリケン堂がオープン。今でも



通天閣の展望台に鎮座し、足の裏を撫でれば願いごとがかなうと人気で、大阪の人々や街を見守っている。(初代はルナパークの閉鎖とともに行方不明となり、今は2代目)。

ビリケン弁当の蓋を明けると、まず目を引くのが、三角おにぎりの海苔の上に描かれたビリケンさんの顔に、願い事が叶う足形に切り抜かれた人参の煮物。福の神にあやかる福神漬けに、大吉厚焼玉子。タコを丸ごとベース状にすりおろし天かすとしょうが入った丸ごとタコ揚げに、栗おこし、小芋・こんにゃくの



変り串カツ。タコウインナーに、大阪名物のミニみたらし団子も入って美味。蓋の裏には、さすると願いが叶うという大きな足形に願い事を書き入れ飾ることもできる遊び心一杯の通天閣公認のビリケン弁当をガタゴトと揺れる電車の中で味わっている間に、住吉大社の前を過ぎて堺市に入っていた。

お弁当を食べ終えた頃、車窓ののぞくと電車は大和川を渡っていた。デザートは、沿線グルメとして、塾生の

佐伯さんが買い出しにしてくれた**松虫駅徒歩3分の「はやし製菓本舗」**〈電話:06-6622-5372〉の**「浪花ことばせんべい」**は「えげつない」「いけず」「はんなり」など…大阪の商家で使われる“浪花(なにわ)ことば”26種類を、焼き印でつけた手



焼きのせんべい。米川さんが買い出しにしてくれた**住吉島居前 徒歩3分「末広堂」** 電話06-6671-4428の**「さつま焼」**江戸時代住吉は浜辺で砂地だったため薩



摩芋の産地であったため、昭和の初めころまで住吉大社の門前で売っていた蒸し芋の形をした御饅頭。森さんが買い求めた**姫松駅 徒歩1分「フォルマ帝塚山本店」** 電話:06-6622-7141 **「チーズケーキ」**はクリスマスバージョン。**浜寺駅前「福栄堂」** 電話:(072)-261-1677。**「松露だんご」**は明治40年創業以来の浜寺公園名物

午後6時40分、浜寺駅に到着。20分のトイレ休憩の為に扉が開くと、クリスマス寒波の冷たい風が入ってくると交代に、予約していた駅前の**カフェエム** 電話:(072)-261-1677から温かいホットコーヒーの出前も到着。

午後7時、運転手さんが後方の運転席に移動し、大阪に向かってもと来た軌道を折り返す。途中、停車している間に灯りを消し「清しこの夜」をうたいながらクリスマスケーキの蝋燭を吹き消し拍手。ワイワイとケーキを切り分ける。

午後7時30分。我孫子車庫に到着、トイレ休憩の間に車両の前にサンタさん全員で集合写真を撮影。



午後7時40分、再び我孫子車庫を後に、一人一人から自己紹介とチンチン電車でクリスマス!の感想

を語り合った。塾生の北原吉朗さんは、小さな時から電車が大好きなお孫さの中



学生**の細井遵敬君と一緒に参加。「ピンチをチャンスに! オカンが語るげんき堂物語」の塾生の講座の講師として登壇いただいた落語家桂雀々師匠のお母様、菊元政子さん**もご友人と参加し思い出に残る笑顔のクリスマス



を過ごせたと挨拶いただいた。

午後8月10分、恵比須町駅到着。眼の前にそびえ立つ通天閣にサンタさん姿の参加者が行進した。クリスマス夜の夜に、トナカイのそりの代わりにチンチン電車に乗ったサンタさんになり、教会ではなく、通天閣に登って空から夜景が広がる大阪の街に舞い降りるサンタさん気分、アメリカ生まれの福の神ビリケンさんを拝むなんて、これぞ大阪ならではのスペシャルなクリスマスイブを楽しんだ。



去年は、大阪市長が、大阪府に松井知事が誕生し、市と府が連帯して大阪を盛り立てるとい



うが、橋下市長と松井知事二人だけでは大阪はよくならない。一人一人が周囲の人に小さな幸せをプレゼントできるサンタさんになれば大阪は、日本はきっとよくなるはず…。時代の変わり目、いままでの行政体制では持ち

こたえられない。行政に期待したり批判するだけでなく、官民共同でみんな為に一人一人が動き出さなくてはピンチ的な状況は打破できない。まずはたばこの吸い殻やゴミをポイ捨てしないなど各自が公共マナーに気をつけるだけでも大阪の街の雰囲気は変わるはず…。大きく変わる大変な時代だからこそ、このピンチ的な状況が大阪再生のチャンスになればと願うばかりだ。(文:原田彰子/写真:宮本雅彦/受付:宮本麗子・森欣子・佐伯和美)

参加者:一般:有住誠策・枝松緑・加治武史・柏木景司・菊元政子・高橋佳伶・武岡信子・難波りんご・野々村勝・深堀正晶・細井遵敬・南由美・村川圭吾・村川久美子・山田節子 塾生:池崎宗男・北原吉朗・北原祥三・清原風早子・下野謙・田中稔三・中島一・佐伯美和・浜田真弓・原田彰子・水本光洋・宮本雅彦・宮本麗子・森川千世子・森欣子・米川俊信

↓朝日新聞 朝刊 2011年12月25日(日)

